

11. 2Dトラッキングを利用したPPP仮想透視画像作成の検討

研究の概要

本研究は、平成29年4月に新たに導入された血管造影装置を用いた研究です。この装置は、CTのボリュームデータから作成したIVR手技支援画像とCアーム回転角度連携、テーブル位置連携が可能です。近年の救急IVRでは、これら機能を利用するPPP（pre-procedural planning）が活用され、より確実に迅速なIVR手技が行われています。そこで、造影CTのデータを使用し、いかに迅速かつ正確にPPPを活用できるかを検討しています。

研究の目的

当院では、目的血管までの血管走行トレースラインを表示するPPP仮想透視画像を作成しています。本研究では、ワークステーション装置の2Dトラッキング機能を利用して、より迅速かつ正確に作成することを目的とします。平成26年9月～平成29年4月までに撮影された造影CTのデータを無作為に選び、2点プロットでトレースラインを抽出するワークステーション装置の2Dトラッキング機能を利用し、迅速かつ正確に作成ができるか検討を行います。IVRの穿刺部位の血管から各目的血管を結ぶトレースラインを抽出する時間を計測し、成功率を記録します。この2Dトラッキングが有用であると示唆されれば、緊急IVRにおいてPPP仮想透視画像が選択されることとなります。

本研究への参加について

本事業への参加は、患者さんの自由な意思に基づくものであり、参加されたくない場合は、データ登録を拒否していただくことができます。その場合は、病院の担当医または下記問合せ先に御連絡ください。なお、登録を拒否されたことで、日常の診療などにおいて患者さんが不利益を被ることは一切ございません。

調査する内容

平成26年9月～平成29年4月までに造影CTを施行された患者様のデータを調査します。患者様の氏名・住所・生年月日など個人を特定する情報は収集しません。

対象となる患者さんの利益・不利益

この研究は、患者さんのデータをカルテなどから調べるだけです。対象となる患者さんに利益及び不利益はありません。データの解析においても、先にも述べたように、個人情報には調査しないので、個人情報が漏洩する心配はありません。

調査期間

2017年4月から2017年12月にかけて、当院の診療放射線技師がカルテを調査します。

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。個人情報には調査しないので、個人が特定されることはありません。

当院の研究責任者

放射線科 尾崎慎哉

問い合わせ先

放射線科 尾崎慎哉

TEL: 096-353-6501